

県民向けワークショップ等による普及啓発

ワークショップ開催

開催目的

地域住民からの気候変動の影響や適応策に関する情報収集および気候変動を「自分事」として捉えるための意識啓発

参加者

事業者(農水産業、宿泊施設)、地球温暖化防止活動推進員、NPO、大学生、自治体職員など

開催日

(佐世保市)令和6年1月29日(水)14:00~16:00

(雲仙市) 令和6年2月26日(月)14:00~16:00

開催内容

- ・住んでいる地域や各職場などにおける気候変動の現在の影響について、分野毎に整理する
- ・各分野の気候変動の影響に対する対策方法(適応策)を考える
- ・対策にかかるお金、時間の大きさを十字分析(ポートフォリオ分析)する
- ・グループ同士で発表し、質問・議論を行う
- ・分析表の中で、お金、時間がかからないものを、「個人で取り組める対策(適応策)」として認識する

県民向けワークショップ等による普及啓発

ワークショップ概要

〔ワークショップの流れ〕

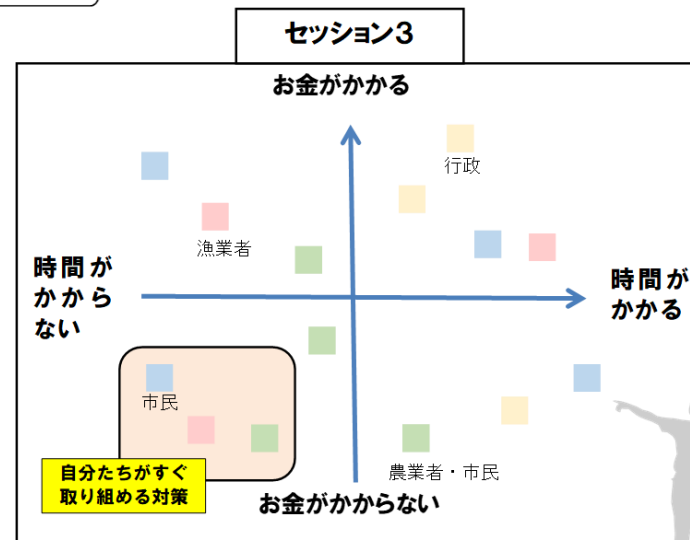
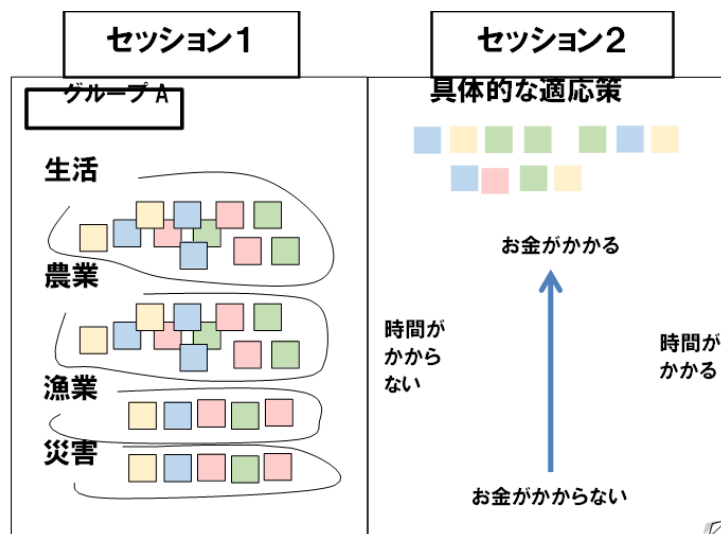
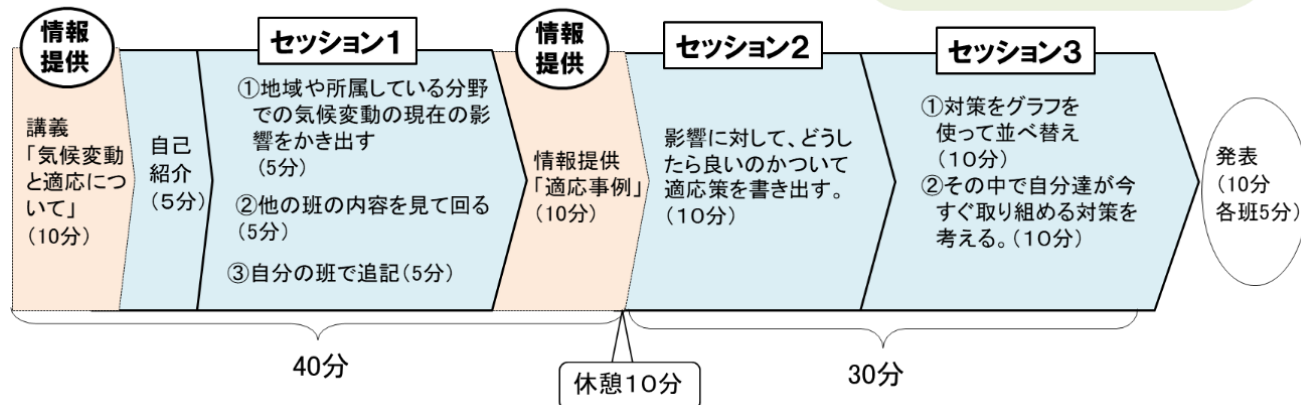
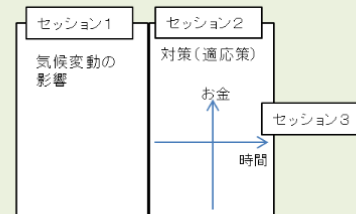
1人ずつ説明しながら模造紙に付箋出し。
ファシリテーターが「分野」や「ジャンル」で整理。
全員出たらフリートークで追加・展開。

シンキングタイム
(ポストイット記入)

全てを書ききるのではなく
あくまで議論のネタとして単語
を記入してもらう

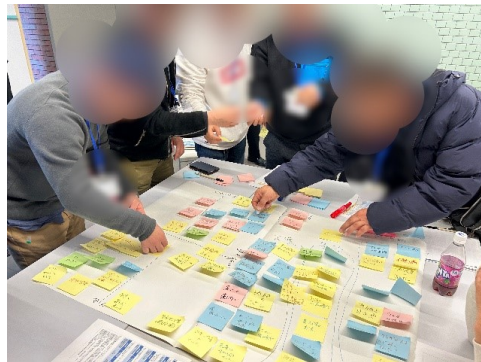


模造紙

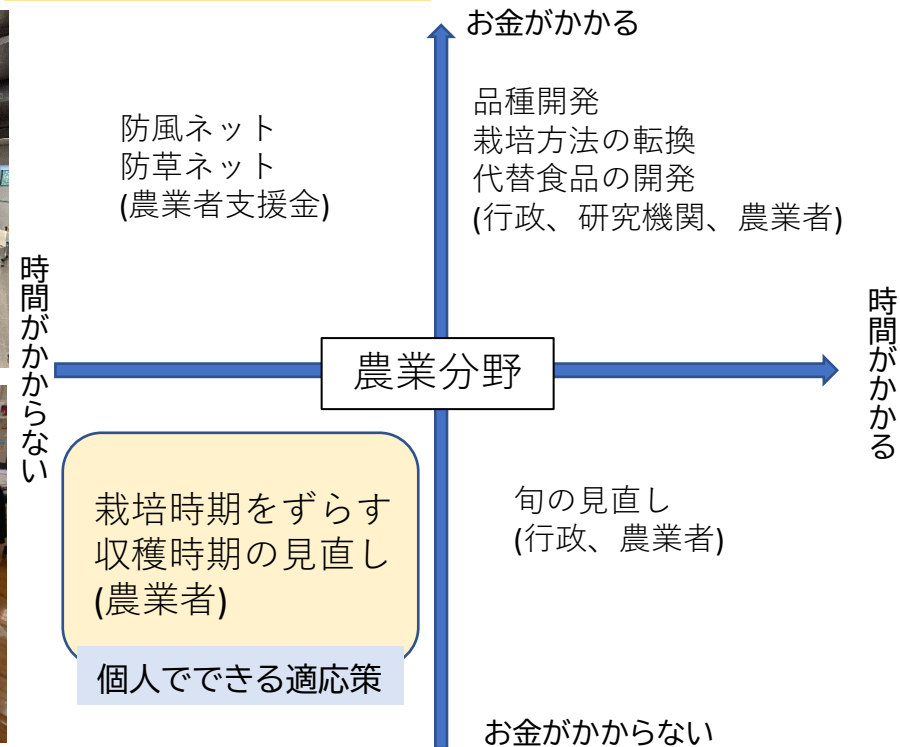


県民向けワークショップ等による普及啓発

ワークショップの様子



分析表(一部抜粋)



成果

①地域や各分野における気候変動による影響の把握

- ・各分野(農水産業、自然災害、気候・気象、生活など)の影響、身近に感じる変化など、各地域で抱える影響を把握できた。

②気候変動影響の対策(適応策)と分析

- ・各自が考える対策方法とそれにかかる時間と費用について大小を分析表に整理することで、各取組の主体となるべきものは誰か、個人が取組めることは何かを認識することができた。

③気候変動対策を「自分事」として認識

- ・生活に直結した話題や、実践されている取組が共有され、「まずはできることから始めたい」、「もっと違う立場・分野からの意見も聞きたい」など、気候変動に対する積極的な感想・意見が得られ、「自分事」としての意識向上がみられた。

(補足資料)
ワークショップで出された意見や
分析結果について

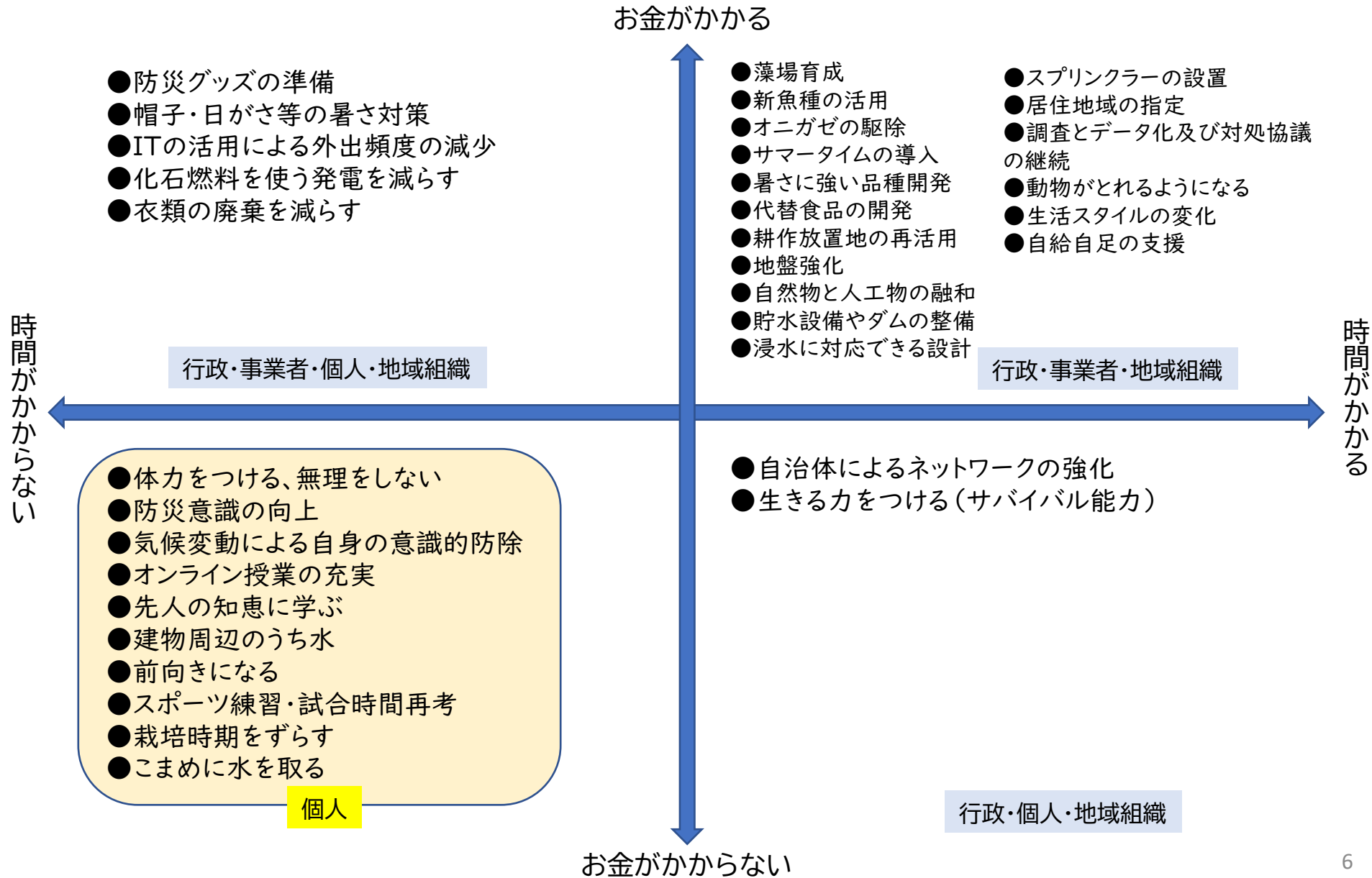
ワークショップで出された意見や分析結果(佐世保会場)

地域や所属している分野での気候変動の現在の影響

ジャンル	気候変動の影響
農業	米の品質低下、野菜の高値、ウンカの飛来(稲)、病害虫の発生、冬場の雨量が減った、野菜の成長が遅い、キノコ類が採れない、動物が家の近所まで来るようになった、
漁業	オニガゼの大量発生、海藻の減少、磯焼け、赤潮発生の増加、漁獲量減、釣果減少、新ワカメの早期化、ヒョウモンダコ・ゴンズイ毒性魚の発生、魚種の変動、水揚げ量の偏り、クラゲ発生の早期化
災害	棚田の崩壊(大雨・地すべり)、降水時期の変化、降水量の増加、集中豪雨の多発、川の増水・氾濫、大雨による学校や保育園の休み増加、水不足、台風の強度・大きさと進路の変化、安全率の変化(建設上)設計
気象	暖冬による雪の減少、雷雨の増加、急激な天候の変化、早朝での熱中症発生、熱帯夜の増加、四季の体感が低下、暑さの質が変化、
生活	水筒持参、衣替えの2極化、猛暑によるイベントの中止、室内イベント全天候型、屋外スポーツが出来ない、子どもの水着の変化、エアコン稼働率アップ、冷房の常態化による体調悪化、暑さ対策施設の充実

ワークショップで出された意見や分析結果(佐世保会場)

気候変動の適応策としてやっていることと対策の優先順位の分類



ワークショップで出された意見や分析結果(雲仙会場)

地域や所属している分野での気候変動の現在の影響

ジャンル	気候変動の影響
農業・畜産	雑草の増加、暑くて植物が枯れる、干ばつによるため池の水の減少、スナップエンドウの成長が早い、温暖化による収穫時期の早期化(水稻)、米の品種増加、家畜の風邪、菜園の日焼け、異常な高温
漁業	赤潮、藻が減りウニが増えた
災害	災害になるような雨の増加、線状降水帯の発生、10年に一度の大雨、昔のようなしとしと雨が少なくなった、強風、土砂災害、棚田の崩壊、
気象	暖冬による雪の減少、雷雨の増加、急激な天候の変化、早朝での熱中症発生、熱帯夜の増加、四季の体感が低下、暑さの質が変化、
生活	オタマジャクシの卵のふ化が早い(2月中旬)、魚が釣れる時期が変わってきた、クラゲの増加、二ホンミツバチが減った、イノシシの被害増加、梅雨に雨が降らない、子どもに気軽に外で遊べと言えない、5月～11月までエアコンを使う、水筒、熱中症、暑くて寝れない

ワークショップで出された意見や分析結果(雲仙会場)

気候変動の適応策としてやっていることと対策の優先順位の分類

